



世界耐久選手権最終戦 鈴鹿8時間耐久 鈴鹿サーキット

ARMY・GIRL TEAM MF & Kawasaki Kawasaki ZX-10RR 2018 BS

奥田 教介 Andrew Lee 大久保 光

予選番 33 番手 SST クラス 5 位 決勝総合 19 位 SST クラス 2 位

大久保光は、スーパースポーツ世界選手権のインターバルを利用して、日本最大のバイクイベント鈴鹿8時間耐久に参戦しました。チームは ARMY・GIRL TEAM MF & Kawasaki、全日本ロードレース選手権 ST600 に参戦しているチームが母体、監督はトッププラベーターとして活躍していた高橋英倫。チームメイトは ST600 を戦う奥田教介で、鈴鹿8耐参戦は初。3人目はアンドリー・リー、米国でレースをする新人で、彼も鈴鹿8耐は初参戦。大久保は3回目、2016年には世界耐久選手権のルマン24時間耐久にも参戦し完走した経験もあり、チームの要でした。高橋監督も「世界の久保選手を頼りにしている、カワサキの若手ライダーたちと、どこまでやれるか挑戦だ」と語っていました。チームが狙うのは SST クラス優勝です。より市販車に近いクラス、ほぼ、市販車での戦いで、EWCC(市販車をレギュレーションの範囲で改造)とは、ポテンシャルが違いますが、同じ舞台で戦います。今大会は、SST クラスには強豪が揃っていました。その中で、大久保は存在感を示す戦いを見せました。

大久保は、ミサノの後に、成田から鈴鹿サーキットへと移動して公開テスト2回目に参加、チームに合流しました。ここでは奥田選手とふたりでテストをこなします。奥田選手の転倒もあり、セッティングは、思うように進みませんでした。アクシデントがなくても、1台のマシンを3人でライディングする鈴鹿8耐のセッティングは、どのチームにとっても難しい課題です。レースウィークにはリーも合流して、マシンを仕上げます。大久保は2分11秒4までタイムアップ。目標の2分10秒台には届きませんでした。短期間でタイムアップする力量を示します。決勝は、不順な天候となり、セーフティカーが3度も入る荒れたレースになりましたが、3人がしっかり、自分のパートをこなし走り続け、予選33番手から、19位まで追い上げを見せました。SST クラス優勝には、後一步とどきませんでした。存在感を示す戦いが出来ました。優勝が18位のチームで、その差は約12秒という差でした。耐久において、12秒差は僅差、ピットワークや、アウトラップ、アベレージタイムを、後少し、上げることが出来たら、届く範囲です。ですが、今回は届かなかった。その悔しさをバネに、ライダーもチームも強くなります。大久保にとっては、貴重な経験が出来た参戦になりました。

大久保光

「普段は600に乗っているのですが、1000に乗れる機会である鈴鹿8耐は、どうしても出たいレースでした。声をかけてもらえて光栄でしたし嬉しかったです。早いタイミングで参戦が決まっていたので、8耐参戦を楽しみに過ごしました。初めてのカワサキのスーパーバイクで、チームも、ペアライダーも、何もかもが初めてでしたが、とてもいいチームで、みんなが出来ることを精一杯にこなして、ノントラブルで走り切ることが出来ました。自分自身も勉強になることがたくさんありました。来年も機会をもらえるようなら、参戦したい。このチームで、SST 優勝を掴みたい、もう少しで届きそうだと思う戦いが出来ました。今回の経験は、本業のWSS600にも、プラスになるはずですし、そうしたいと思っています。更なる上位を目指します。鈴鹿8耐でサポートして頂いた、全ての人に感謝しています。ありがとうございました」

※WSSの sponsor と鈴鹿8耐では違いますが、活動報告としてWSSのリリースと同様の体裁でお送りしておりますことをご了承下さい。

※次回はスーパースポーツ第10戦ポルトガルのレポートをお送りします。



